

納得するまで、やり切りたい

小学2年生から野球を始め、開志学園高校女子硬式野球部では、県内出身者としてはチーム初のキャプテンを務めた遠藤さん。現在は、新潟医療福祉大学女子硬式野球部に所属しています。キャプテンを務めた当時のエピソードや野球に対する信念を伺いました。

「やり切らないと気が済まないんです」
小学2年生の時、兄の影響で野球を始めた遠藤さん。大学でも野球を続けているのは、高校3年生の経験がきっかけでした。
高校3年生の時に、野球人生で初めてキャプテンを任せられ、チーム全体を見渡す立場は戸惑いの連続だったと言います。
「チームが一つになるためにどうしたらいいのか考える毎日でした。一人で悩んだ時、真つ先に相談するのは同学年の仲間でした。親身になって一緒に考えてくれる彼女たちがいたからこそ務められました」
当時の仲間も「責任感が強く、周りの人のことを考えられる遠藤さんなら、キャプテンもきっと大丈夫」と思ったそうです。しかし、高校最後の大会前にけがを負い、思うようにプレーができず、悔しい思い

をした遠藤さん。それでも、大会当日は監督から託された伝令をマウンドへ届けるとともに、キャプテンとして仲間を励まし、チームを支えました。
「その思いに応えたのかチームがピンチを乗り越えた時は、本当にうれしかったです。この大会を通じて、納得するまで野球をやり切りたい」と感じたことが、大学で野球を続けたきっかけにつながっています」
そんな野球人生で、一番感謝している人は両親だと言います。
「野球をもっと続けたいと話した時、背中を押して応援してくれました」
家族や仲間への感謝を胸に、遠藤さんは大学という新たな舞台でも、「自分が納得するまでやり切る」という信念を胸に日々の野球に励んでいます。



えんどう はな
遠藤 花さん(南一丁目)

●新潟医療福祉大学1年生
女子硬式野球部所属



▲伝令を届け仲間を励ます
高校の時の遠藤さん
(写真右)



▲大学の試合で打席に立つ
遠藤さん

大ちゃんコラム

燕市長 佐野大輔

「祭りといえば花火！」

最近、花火を復活してほしいという声をいただきます。これまでも花火大会の開催に向けて協議・検討を進めてきましたが、保安上などの理由から開催可能な場所がなく、断念しました。

そこで、今年は合併20周年を祝い、夏まつりのフィナーレを飾る参加型イベントとして、「みんなであつくるう燕デジタル花火大会」を8月23日(日)に市役所で開催します。

このイベントでは、「夜空をみんなで彩ろう」をテーマに、皆さんが描いた絵を庁舎壁面に投影し花火のように打ち上げます。また、当日は3地区の太鼓の共演などのステージイベントでも会場を盛り上げます。皆さまぜひお越しください！



車の買取りならお任せ!! 夢っくる分水店

有限会社 中野自動車商会

リサイクル・リユースを促進し、大切な資源に新しい命を吹き込むお手伝いをします。

燕市笈ヶ島 1259-1
tel.0120-559-154

◀こちらは有料広告です。